

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

旭川医科大学研究フォーラム (2003.12) 4巻1号:69-70.

【学会の動向】第30回日本小児神経外科学会報告

田中達也、中井啓文

学界の動向

第30回日本小児神経外科学会報告

田中達也・中井啓文*

第30回日本小児神経外科学会は、旭川医科大学脳神経外科学講座の田中達也教授学会会長主催のもと、旭川市で開催されました。

学術集会は、学会関連の卒後研修プログラムである小児神経外科医教育セミナー（於：旭川グランドホテル）を6月5日(水)に終日おこなった後に引き続いて、6(木)、7日(金)、8(土)の3日間、旭川グランドホテル3階の口演2会場と2階のポスター・機器展示会場において開催されました。

この学会の全会員数は約1500名です。日本全国の大学及び脳神経外科施設から300名以上の脳神経外科医が参加し、また、韓国、スイス、USA、カナダからも招待演者5名をお招きしました。発表演題は、1. Battered Child Syndrome、2. 小児グリオーマの治療、3. 小児てんかんの3つのシンポジウムを柱に、教育講演 Battered Child Syndrome 1題、外国からの招待講演8題、そして一般演題が加わり、全発表演題数は177題でした。

今年度の日本小児神経外科学会の学会賞である「川淵賞」は、昨年度の「小児の脳神経」に投稿された研究論文の中から編集委員の投票によって決定されましたが、旭川医科大学脳神経外科学講座の橋詰清隆講師らの「非侵襲的検査による小児てんかん外科治療：26巻2号」が選出され、本学会の総会で、栄えある表彰状が授与されました。

1日目の午前中は、第1会場では、Battered Child Syndromeのシンポジウムと教育講演、そして旭川医科大学の塩野寛教授による法医学者の立場からの教育講演が行なわれました。シンポジウムでは旭川医科大学小児科学講座の沖潤一助教授にも乳児2例の貴重な報告をしていただきました。第2会場では、水頭症病

態、水頭症・V-P shunt・内視鏡、癒合不全症1、癒合不全症2の各口演セッションが行われました。

昼には、第1会場・第2会場で各1題のランチオンセミナーが行われました。韓国 Yonsei 大学脳神経外科主任教授 Dr. Joong-Uhn Choi には、“Treatment of craniopharyngioma in children”を、スイス Lausanne 大学教授 Dr. Kathleen Meagher-Villemure には、“Pathological substrates in pediatric epilepsy surgery”をそれぞれ御講演いただきました。

引き続き午後の部ではポスター会場にて脳腫瘍1、2、3、血管障害1、2の各セッションが行われ、1日目の演題発表は終了しました。

その後は招待講演が行われ、アメリカ UCLA Medical centerのDr. Gary W. Mathern 助教授には“Pediatric epilepsy surgery and the pathological substrates that cause them”を、スイス Lausanne 大学の Dr. Jean-Guy Villemure 教授には“Current status of hemispherectomy”をご講演いただきました。また、夜は世話人会が開かれ、次期学会が新潟大学脳神経外科田中隆一教授主催で開かれることが確認されました。

2日目の午前中は、第1会場では、シンポジウム3. 小児グリオーマの治療、口演5. 後頭蓋窩腫瘍、同6. くも膜嚢胞・脊髓空洞症、第2会場では口演7. 頭蓋縫合早期癒合症、同8. 動静脈奇形、同9. モヤモヤ病、10. 外傷の各セッションが行われました。

昼には2題のランチオンセミナーが行われました。Villemure 教授には“Pre-surgical evaluation of paediatric epilepsy”を、Mathern 助教授には“Clinical pathological studies in surgically treated temporal lobe epilepsy”をそれぞれ御講演いただきました。

引き続き午後の部では、ポスター会場にて外傷・て

* 旭川医科大学 脳神経外科学講座

んかん、先天異常 1、2、3 の発表が行われました。その後は招待講演が行われ、韓国 Yonsei 大学の Choi 教授には “Management of the spasticity in children for the 21st century” を、カナダ Toronto 大学 Hospital for sick children の Dr. Peter Benjamin Dirks 講師には “Is a normal neural stem cell transformed into a brain tumor?” を御講演いただきました。

3 日目は、第 1 会場で口演 11. 機能神経外科、会長講演、シンポジウム 4 . てんかん 1、シンポジウム 5 . てんかん 2 が行なわれ、第 2 会場では、その他腫瘍、グリオーマ、胎生遺残組織由来腫瘍の各口演セッションが行われました。会長講演には、日本を代表する脳神経外科医である東京大学名誉教授の佐野圭司先生に司会の労をおとりいただき、田中達也会長のライフワークである「小児てんかん外科の基礎からのアプローチ」についての講演があり、佐野名誉教授より、小児の機能的脳神経外科の分野は欧米に比べて日本は遅れており、今後益々の研鑽が必要であると激励のお言葉をいただきました。

3 日間にわたって、活発な発表、討論が行われた本学会も、午後 12 時過ぎ閉会の辞をもって無事終了いたしました。小児神経外科治療について、最先端の知識が得られ、今後の診療に大いに役立つものと思われま。ここにあらためて、皆様のご支援、ご協力により盛会裡に終了できましたことに感謝申し上げますとともに厚くお礼申し上げます。

なお、旭川医科大学脳神経外科学講座は、平成 15 年 10 月には第 33 回日本臨床生理学会を、さらに平成 16 年 11 月には第 13 回日本海馬と高次脳機能学会を、平成 17 年 10 月には第 39 回日本てんかん学会を主催致します。皆様の積極的なご参加とご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

付記：この記事は、脳神経外科学講座の田中達也教授の原稿をベースにして同講座の中井啓文助教授の補足原稿を加えるとともに、編集上の都合で一部を割愛し（とくに懇親会の場面）、編集委員会の責任においてまとめたものです。